

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079100162		
法人名	有限会社 北村		
事業所名	グループホーム なかま		
所在地	〒839-0223 福岡県みやま市高田町岩津785番地		TEL 0944-22-6568
自己評価作成日	令和02年09月18日	評価結果確定日	令和02年11月09日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今まで長年暮らしてきた生活リズムを崩さず、人間らしく平等で自由に、家庭的な日常生活を継続支援し、残された能力を引き出し、ゆったりと落ち着いた、不安のない心で家庭とのかかわりも密にしながら、又地域の行事や、隣接する地域の方々との交流を深めながら過ごして頂く。小規模で介護の出来る、明るく、楽しいグループホームです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		TEL 093-582-0294
訪問調査日	令和02年10月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「なかま」は、認知症高齢者が重度化しても最後まで安心して暮らせる「終の棲家」として開設した定員9名のグループホームである。利用者と職員は、地域の一員として行事や活動に参加し、年々地域交流の輪が広がっている。敷地内に実の生る木を植え、花壇や畑を作り、利用者は、果物や野菜の成長と収穫を楽しみに穏やかな日常生活を過ごしている。管理者は看護師の経験を活かし、利用者の状態観察を行う目は確実で、ホームドクターと相談しながら安心の医療体制で、看取りの支援も行っている。食事は調理担当職員による美味しい料理が提供され、一日2回行う歩行、立位訓練で下肢筋力を鍛え、馴染みの職員が優しく寄り添い話しかけ、明るい笑顔を取り戻した利用者の様子を見守る家族は喜びに包まれ、「ここを選んで良かった」と、利用者や家族と深い信頼関係を築いているグループホーム「なかま」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	最近、コロナウイルスの影響でサロンも中止となっている為庭へ出て花を見たり野菜の収穫をしているがサロンが開始すれば参加者する予定。	ホーム独自の理念を見やすい玄関や廊下に掲示し、毎日の申し送り時に出勤職員で唱和して理念の共有に努めている。開設16年目を迎え、地域社会と共生しながら、地域密着型事業所として認知症高齢者が安心して暮らせる環境整備に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に入って、葬式の世話や、缶拾い等行っている。市営住宅の人を送迎している。お宮の清掃に、第三日曜日に参加している。	隣組との付き合いが始まり地域住民の理解を得る事ができ、少しずつ地域との協力関係を築き、神社の清掃や敬老会、いきいきふれあいサロンに参加している。中学生の体験学習の受け入れ、ホーム内に飾る絵手紙や生花を持参してくれる近所の方々との交流等、地域福祉の拠点を目指し、管理者と職員が一丸となって取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岩田幼稚園からも、おゆうぎ会に来て頂き中学生のボランティアを受け入れているので、少しずつ理解されてきている。その中で、介護に就職された生徒さんがでている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	水害の避難場所が市営体育館があり、区長さんより直ぐ教育委員会に相談されスロープを作ってもらった。	会議は、利用者、家族、民生委員、市職員の参加を得て2ヶ月毎に開催している。「なかま新聞」に沿って行事の説明を行い、避難訓練について意見交換したり、介護保険課より情報提供を受ける等、充実した会議である。出された意見や要望は検討し、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者が運営推進会議に参加され2ヶ月に1回は高田町グループホーム協会に係長さんも参加される。	運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの現状を伝え、質問や意見、情報提供を受け、協力関係を築いている。高田町の3グループホームと行政職員、民生委員が集まり、高田町グループホーム協議会を設立し、年6回会議を開催し、それぞれの立場から意見や情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしない為に、Dルームにて休んでいただいたり、ドアから見える位置にスタッフが座って観察している。布団を動かした時に鈴がなる様にしたり靴に鈴をつけてどこに行っているのか把握する様にしている。	身体拘束の職員研修が義務化され、職員会議や勉強会の中で研修を実施し、言葉かけや対応に気を配り、職員同士で注意し合える関係を築き、身体拘束のない介護が出来ているかを確認をしながら、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。また、死角のない見守りが出来るように職員が工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は、言葉の暴力もそうである事を話し合っている。入浴時の身体観察にも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の長男さんが後見人になられた事がある。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を開催し、制度の重要性を理解し、利用者や家族から制度についての相談があれば、内容や申請手続きの方法を説明し、申請機関に橋渡し出来る体制を整えている。以前、制度を活用していた利用者がいたので、職員は制度について理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最近肺炎で入院されたが又、来設したいとの希望がありまでターミナル受け入れる事とした。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昔は、どこの家も実のある木があったので、植えてほしいとの事でいちぢく、柿、ビワ、グミ、さくらんぼ、アンズ等を植えている。又、畑は利用者さん希望でサツマイモと玉ねぎ、ネギ、ニラ等を植えている。最近は里いもをうえている。投書箱を設置している。	職員はホームの日常生活の中から、利用者の意見や要望を聴いている。家族の面会や運営推進会議参加時に、職員が家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聴き取り、ホーム運営や利用者の介護サービスに反映させている。利用者の写真満載の「なかま新聞」を毎月家族に送付し、ホームでの暮らしの理解を得ている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務も家族も大切にもらうため、公休の希望が欲しいとの事で4回までは希望OKと個人交代もお互いに交渉が成立すれば可能としている。	管理者は、日常業務の中で、いつでも気軽に職員の意見や提案を聴く機会を設け、出された意見はホーム運営や業務改善に反映させている。朝夕の申し送りや日常の業務の中で職員間で話し合い、ノートに記録して情報の共有に努めている。	定期的に職員会議を開催し、職員が顔を合わせて意見交換をする場を設け、情報の共有と意識の統一を図る事を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務は勤務時間、準夜帯と交代がきちっと出来る様心掛けている。介護の資格に取り組んでもらっている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたって性別や、年齢は不問としている。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考え等を優先して採用している。希望休(月4日)や、それぞれの事情を汲んだ勤務体制を確立し、働きやすい職場作りに取り組み、職員の離職は少なく定着している。また、資格取得のためのバックアップ体制を整え、職員が意欲的に働ける就労環境である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	今年はコロナの影響で研修があまり参加出来ないが新人教育として取り組んでいる。	職員は、人生の大先輩として利用者を敬愛し、言葉遣いや対応に注意して、利用者の尊厳や権利が尊重される暮らしの支援に取り組んでいる。また、「いきいきふれあいサロン」に出かける等して、認知症の啓発活動に取り組んでいる。外部の人権研修を受講した職員が伝達研修を行い、利用者の人権を尊重する介護の実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その人その人の能力や介護の力量に合わせて、研修を受けてもらっている。伝達研修などを行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月に高田町グループホーム連絡協議会を開催し、お互いの良い所を報告しあい自ら取り入れている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分に時間をかけてその人に、寄り添い会話を密にしているので、取られ妄想などが減少している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のかかえている問題を十分に聞く事により、ここに入居して良かったという言葉が聞けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コロナ過だが、隣の席の人を奥さんと間違えてある為面会中止だが短時間面会してもらっている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや食器拭き又、食事の下ごしらえ等を取り入れラッキョのそろえ方や干し柿の作り等を教わったり、共に漬けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来て頂く時は孫さん達も来やすい様に自動車やままごとを用意したら毎週一回面会に来て頂いて会話をしていたり、介護は出来ないのとと草刈りに来て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	庭の中で心を癒してもらっている、ベランダより外を見てある。	地域の敬老会や「いきいきふれあいサロン」に参加して知り合いに会ったり、馴染みの美容室の送迎を行い、利用者が築いてきた人や場所との関係が、ホーム入居で途切れないように支援している。また、利用者の知人や友人、親戚等の面会は、家族の了解を得て、ゆっくり寛げる雰囲気の中で、楽しい時間を過ごしてもらえるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はデイルームで皆さん過してもらい活動や学習体操などスタッフが交え交流を保っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経済的理由から特老に行かれたが、利用者さんと時々おはぎが好きだったので面会に行ったり、亡くなられたらお参りに行ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事もゆっくり促したら時間がかかるが、その人のスペースに合わせている。ゴーヤ等の収穫を喜んでもらっている。花に対して興味を示されるので季節の花を飾る様に努めている。	職員はホームでの暮らしの中から、利用者の思いや意向を聴き取り、職員全員で共有し、一人ひとりを尊重したその人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。利用者の好みを把握し、蜜柑の好きな方、柿が好きな方、無花果を採りに行くのが好きな方等、その方らしく過ごせるよう支援に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に一人一人の本人や家族からの情報収集に努めている。地域的に農家が多いので畑が好きな人が多い。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	女性なので、食事の下ごしらえ等は特に喜ばれるが、包丁などは難しい人もいて、能力に応じている。もやし揃えやニラ揃えが好きなのでスタッフに揃えたニラを持ち帰ってもらう事もある。元学校の先生がおられ採点してもらおう事からしてもらおうと動かれる。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成したらミーティングにかけて意見やアイデアを反映している。	家族の面会時に合わせて担当者会議を開き、意見や要望を聴き取り、介護計画に反映させている。ADL状況を記録し、職員間で協議して利用者本位の介護計画を作成している。利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	なるだけ詳しく記録し少しの変化にも注意を払う皆で共有できるようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間の設定はせずいつでも家族・親族が会いに来れるようにしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあいイキイキでの地域の方のふれあいを何となく思っており楽しんでいるがコロナより面会を制限している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの生活を継続出来る様にかかりつけの病院をそのまま継続して頂いている往診が必要な方など密にかかりつけの医師との連絡をとっている 歯科の往診を取り入れている緊急時の対応の敏速な職員間の連絡を取る	入居前に利用者や家族の希望を聴きながら主治医を決めている。馴染みのかかりつけ医の受診は家族にお願いしているが、家族対応が困難な場合はホーム職員が同行し、結果を家族に報告して、医療情報の共有に努めている。また、往診体制が整った協力医療機関と連携し、24時間安心できる医療連携が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診などもおられ急変時の対応で家族の思いや対応の違いを感じその意見を尊重している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関のソーシャルワーカーや看護師などとの連絡を密に取り毎日病室にお見舞いに行き体調を見に行っている。コロナの間は中止している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と終末期の話し合いを行い看取りはホームとの希望あり。かかりつけ医と地域の方との支援を行なうようにしている。定期的に往診・体重の変化などしっかり観察し水分量、食事量も記録するようにしている。職員間の情報共有をスキルアップする	重要事項説明書を基に、契約時に重度化や終末期について、利用者や家族の希望を聞いている。利用者一人ひとり条件が違う為、利用者の重度化に伴い、改めて意向を尋ね、方針を確認している。主治医と連携し、職員全員が一丸となって看取り介護に取り組み、安心して終末期を過ごせる環境整備に取り組んでいる。これまで数名の看取りを経験している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の勉強会や指導をしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災訓練及びあたご荘への避難等、全員確認、地域からも連額が密である。(民生委員さんや各区長さん)	消防署の協力と指導を得て、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施し、通報装置や消火器の使い方の確認し、非常口、避難経路、避難場所を確保し、利用者を安全に誘導出来るように訓練している。非常時に備えて非常食の備蓄を行い、近くの消防団員や近所の職員、地域の方との協力体制も築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重とプライバシーの確保は守っていて、言葉かけも丁寧である。	利用者のプライバシーを尊重する介護サービスについて、職員間で話し合い、声の大きさや、あからさまな介護にならないように注意し、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護に取り組んでいる。職員は経験豊富な人生の先輩である利用者から、色々な事を学び、利用者を敬う気持ちを持って、日々の暮らしを支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	殆んど自分の意思決定により外への散歩や更衣なども行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ぬり絵やパズルなども希望に応じてして頂いている、洗濯量などそれぞれに支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時も、自己決定を大切に洋服も持参して頂いたり、選んで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等、そろえ物はもう少し取って来んね等言われたりしている。	利用者が楽しみにしている食事は、利用者と職員と一緒に料理の下拵え(もやしの根切り等)や食事の片付けを行い、お盆の迎え団子や干し柿作りにも取り組んでいる。楽しく食事が出来る雰囲気作りを心掛け、利用者と職員は談笑しながら一緒に食事を楽しんでいる。調理担当職員を採用し、庭の畑で収穫した新鮮な野菜を使った美味しい料理を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時のおやつ時も、ミルクが消化がいいと言う事で取り入れたり、いりこをすったりしてデータの的にも異常の人はいません。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科治療後アフターケアもして頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導は訴えの無い人は3Hごとに誘導しているが、やもえずオムツの方もいる。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者が重度化してもトイレで排泄することを基本とし、長く座ってもらう等、個々への対応を工夫しながらトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。室内散歩でしっかり歩いてもらい、立位訓練の時間を設けて下肢筋力の低下を防ぎ、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレにゆっくり座る事により、排泄可能な方もあり個別的に取り組んでいる。立ったり座ったりの運動に心掛けている。又、便秘傾向の方はバナナジュース等で排便される方もいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	便失禁で汚染がヒドイ時などは優先して入って頂いている。拒否される時は時間をおいて再度声かけをしている。	利用者の希望や体調に配慮し、入浴帳を付けて確認しながら、基本的には週3回の入浴支援に取り組んでいる。入浴時には、全身観察を行い、湿疹や傷等がないか確認している。拒否される利用者には、「明日、病院だから」「一番風呂よ」等、工夫しながら声掛けし、無理な場合は、清拭や足浴に変更し、清潔保持に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早寝早起きの人が多く8時頃は自室に自ら帰られる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	認知症のメモリーや血圧の薬などは注意して観察している。副作用に注意が必要な時はしばらく壁に張ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性の方ですが、もやしそろえやニラそろえが好きなのでホームの横になっているニラそろえをもらってスタッフに持ち替え得てもらう事がある。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	草取りの好きな方は、庭で草取りをして頂いたり時々自宅に帰り外食に連れていってもらっている。天気の良い日は外で日光浴や花見などおやつ時お茶を飲んだりゆっくり過ごしてもらっている。近くに中学校などがあり地域交流面で良い為中学生との交流を少しでも行いたい	コロナ対策以前は、ホームの周りを毎日のように散歩したり、庭の手入れや畑の野菜の収穫を楽しみ、外気浴を兼ねて戸外に出かけられるよう支援している。地域の行事や「いきいきふれあいサロン」季節毎の花見、お茶会、コンサートに出かける等、日常的に外出できるよう取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布に2,000円入れて頂いてそれを見て安心されてある。財布にお金をもって袋を大切にしている、入浴時男性にお金をやられる事があり預かって返している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキを書かれるので出している		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小さいカーテン等で直射日光が当たらない様工夫している居室には季節感のある飾りをしている。配色や色ぬりなど少し高度な技術力を向上させ興味を引き出す	ホーム内は、毎月利用者と職員が作る季節感のあるカレンダーや、小物や生花を飾り、季節感や生活感を取り入れた家庭的な共用空間である。広い敷地の中に、利用者や家族の要望で、無花果やサクランボ、アズキ等実の生る木や、さつま芋等の野菜を植えたり、花の好きな方のために花壇を造る等して、利用者が季節を五感で感じる事が出来る環境作りに取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下散歩時テーブルに座ったり外を見て会話したりされている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやイス等を持ち込んであり、自宅に近づいている。布団や枕など自宅で使い慣れた物を持ち込みを実施している。本人さんの希望により就寝時の布団の厚さなどに配慮している。季節感を取り入れ本人さんの希望に少しでも添え花などの飾りなど実施する	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が使っていた枕や布団を出来るだけ新調せずに持って来てもらうようお願いしている。長年愛用していたソファや筆筒、マッサージチェア等を家族の協力で持ち込んでもらい、利用者が自宅と違和感なく、安心して過ごせるよう支援している。また、換気や清掃をこまめにを行い、利用者が気持ち良く過ごす事が出来る居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯後タオルたたみ等を手伝ってもらったりお茶碗洗い拭く方法等		